

## 海外安全対策情報（2022年10月～12月）

### 1 社会・治安情勢

#### (1) テロ等の傾向

ア パキスタンのテロ発生件数は、軍及び治安機関等によるテロリスト掃討作戦により、2009年以降減少傾向にあったものの、2021年にはテロ件数は8年ぶりに増加に転じた。隣国アフガニスタンについては、2021年に首都カブールが陥落以降地域情勢は不安定化し、パキスタンにも大きな影響が及んでいる。2022年11月、パキスタン・タリバーン運動（TTP）がパキスタン政府との停戦協定の破棄を宣言し、テロの脅威がある。

イ 10月のテロ発生件数は42件であった。テロにより、67名が死亡し121名が負傷した。テロで死亡した67名の内訳は治安機関員が17名、民間人が9名、武装勢力が41名であった。

11月のテロ発生件数は35件であった。テロにより81名が死亡し79名が負傷した。死亡者の内訳は治安機関員が23名、民間人が7名、武装勢力51名であった。

12月のテロ発生件数は38件であった。テロにより95名が死亡し、109名が負傷した。死亡者の内訳は治安機関員29名、民間人17名、武装勢力が49名であった。

テロ発生件数は前の期（2022年7月～9月期）から48件増加（67件→115件）し、死者は132名増加（111名→243名）、負傷者は214名増加（95名→309名）した。

（当地シンクタンク「パキスタン平和研究所（PIPS）」調べ。）

ウ 今期においては、即製爆破装置（IED）攻撃や銃撃が主要なテロの手段であり、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設を標的と公言している勢力もある。

エ 都市部や地方の別に関わらず、治安当局によるテロリストの拘束及び武器・弾薬等の押収が多く確認された。治安当局による徹底した取締りが行われているが、依然としてイスラマバード首都圏を含めた都市部においてもテロの脅威は存在している。

#### (2) 各種デモ

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による様々なデモが行われる傾向にあり、デモ参加者の行動がエスカレートし一部が暴徒化することもある。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

### (1) 邦人被害事案

なし

### (2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が頻発している。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

### (3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバード首都圏は富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に加担する事件が時折発生している。また、家主の不在間に家屋に侵入し、金品を窃取する事件が発生しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

### (4) 名誉殺人

当国では地方を中心に、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される、所謂名誉殺人が跡を絶たない。今なお保守的なパキスタン社会では、毎年数百人の女性が名誉殺人の犠牲になっており、今期も凄惨な殺害事件が発生している。また、当地では親同士が本人の意思と関係なく決めた相手と結婚させるのが都市部でさえ一般的であり、それに起因するトラブルで結婚相手やその家族・親族等からのDV被害も深刻な問題となっている。

### (5) 性犯罪及び虐待

当地では、婦女暴行を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は非常に多く、性犯罪は増加傾向にあると報じられている。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことが多く、被害実態は正確に把握できない。被害者の年齢及び性別は多様で特に子どもをターゲットにした極めて悪質な犯行も多く発生しており、誰もが被害者になる可能性がある。また、最近の報道によると、イスラマバード市内居住の外国人駐在員女性が自宅の外の警備に従事している警備員に寝室に押し入れられ、性的暴行を受けた事件が発生している。当地では、「自分の身

は自分で守る」という意識を常に持ち、決して油断することなく、細心の注意を払うことが重要である。

(6) サイバー犯罪

パキスタン連邦捜査局（F I A）サイバー犯罪部門は、SNSを通じた詐欺投資話、違法な資金取引、児童ポルノのアップロード等、サイバー領域における監視を強化している。F I Aでは、違法な手段で入手した資金がマフィアの活動資金となっているとして、摘発を強化している。

(7) プロの物乞い

イスラマバード首都圏では、マフィアの支配下にある物乞いが問題となっており、イスラマバード警察では摘発に力を入れている。道路上での物乞いを装って、拳銃強盗を働くケースも報告されている。物乞いに窓を開けて対応する等、不注意な行動は犯罪者に隙を与えるため、慎む必要がある。

(8) 宗教上の禁忌に対する反応

2021年12月3日、パンジャブ州シアルコートの工場において、スリランカ人マネージャーをパキスタン人従業員が撲殺し、その遺体を路上で放火する事件が発生した。事件の発端は、宗教的禁忌（予言者ムハンマドに対する冒瀆）に起因しており、激高した多くの従業員が暴徒化した。宗教上の禁忌に十分な注意を払い行動する必要がある。

(9) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

3 2022年1月から2022年12月までのテロ発生状況

1月	24件、死者	35名、負傷者	72名
2月	15件、死者	46名、負傷者	33名
3月	22件、死者	108名、負傷者	273名
4月	30件、死者	51名、負傷者	12名
5月	15件、死者	19名、負傷者	35名
6月	15件、死者	19名、負傷者	15名
7月	27件、死者	42名、負傷者	57名
8月	17件、死者	29名、負傷者	22名
9月	23件、死者	40名、負傷者	16名

10月	42件、死者	67名、負傷者	121名
11月	35件、死者	81名、負傷者	79名
12月	38件、死者	95名、負傷者	109名

(出典：パキスタン平和研究所「PIPS」)

#### 4 安全を考える上で参考となる事件等 (報道ベース)

##### 10月分

- 1日、治安部隊は、KP州のデラ・イスマイル・カーン (Dera Ismail Khan) にて、パキスタン・タリバーン運動 (TTP) のガンダプール (Gandapur) グループに所属する2名を殺害した。
- 2日、警察テロ対策局 (CTD) は、バロチスタン州ナシラバード (Nasirabad) にて、掃討作戦によりテロリスト4名を射殺したと発表した。
- 2日、警察テロ対策局 (CTD) は、1日にカラチの Gulshan-i-Maymar で死亡し、武装勢力2名はISホラーサーン州 (IS-K) に所属していたと明らかにした。また、彼等が2017年のバロチスタン州警察副総監 (DIG) への自爆攻撃や2021年のクエッタ・セレナホテルでのテロ事件に関与していたと主張した。
- 4日、軍統合広報局 (ISPR) は、KP州ペシャーワル郊外の Hassan Khel にて3名のテロリストを殺害した一方、2名の警察官が殉職したと発表した。さらに同日、治安部隊は同州タンク地区にて掃討作戦を実施し、4名のテロリストを殺害した。
- 6日、ペシャーワル郊外のマタニ (Matani) 地区にて掃討作戦が実施され、テロリスト1名が死亡した。
- 7日、ギルギット・バルディスタン (GB) 州チラスのタック (Thak) 村にて、武装勢力が道路を封鎖し、Abaidullah Baig 同州大臣や外国人旅行者等を捕らえた。同地区の政府高官や宗教指導者が武装勢力と交渉した結果、同大臣や旅行者等は解放された。
- 7日、KP州スワート地区にて、同地区での武装勢力排除を要求する抗議集会が実施され、同集会にはPTIを除く全ての当地区政党指導者が参加した。
- 8日、警察テロ対策局 (CTD) は、KP州スワート地区にてパキスタン・タリバーン運動 (TTP) 戦闘員2名を殺害した。

○ 10日、KP州スワート地区 Charbagh 郡にて、学校に向かっていたスクールバスが武装勢力に襲撃され、運転手1名が死亡した他、生徒2名が負傷した。

○ 11日、KP州スワート地区でスクールバスが襲撃されたテロ事件を受け、同州ハリプール、バッタグラム (Battagram) 等、各地で抗議デモが実施された。同州ミンゴラ (Mingora) で実施された抗議集会には数千人が参加し、州政府に実行犯を逮捕するよう要請した。

○ 12日、KP州クラム (Kurram) 部族郡にて、土地問題をめぐって対立する2つの派閥が衝突し、4名が死亡した他少なくとも10名が負傷した。

○ 14日、バロチスタン州マストング (Mastung) 地区のカブ (Qabu) にて、部族長老を標的とした爆発事件により、3名が死亡、6名が負傷した。標的となった部族長老は無傷であった。

○ 14日夜、ムハンマド・ヌール・メサンザイ (Mohammad Noor Meskanzai) 元バロチスタン高等裁判所長官は、バロチスタン州ハーラン (Kharan) 町のモスクにて暗殺された。バロチスタン解放軍 (BLA) は、同事件の犯行声明を発表した。

○ KP州警察は、同州スワート地区マッタ (Matta) にて、パキスタン・タリバーン運動 (TTP) が設置した基地を解体し、武装勢力を一掃した。また16日には、同州ラッキー・マルワット (Lakki Marwat) 部族郡にて、数千人の人々が抗議デモに参加し、州政府に過激派を排除する具体的な措置を講じるよう要請した。

○ 18日、バロチスタン州ハーラン (Kharan) にて、掃討作戦によりバロチスタン解放軍 (BLA) 4名が殺害された。

○ 19日、ラフマーン気候変動相、アーシフ国防相、ピールザーダ人権相をはじめとした閣僚等は議会にて、KP州スワート地区におけるTTPの復活及びバロチスタン州における武装勢力の存在に警鐘を鳴らした。

○ パキスタン平和研究所 (PIPS) は、タリバーンのアフガニスタン制圧以降、パキスタンでテロ攻撃が51%増加したと発表した。2021年8月15日から2022年8月14日の間に250件のテロ事件が発生し、433名が死亡、719名が負傷。

○ 19日、KP州ラッキー・マルワット (Lakki Marwat) にて、正体不明の者による

発砲により警官が重傷を負った。また20日には、同州デラ・イスマイル・カーン (Dera Ismail Khan) にて、警察官1名が銃殺された。

○ 21日、KP州北ワジリスタン部族郡のスピンワム (Spinwam) 地区にて、治安部隊との銃撃戦によりテロリスト4名が死亡した。

○ 21日、バロチスタン州カラット (Kalat) 地区のジョハン (Johan) にて爆発が発生し、治安部隊2名が死亡した他、3名が負傷した。さらに22日夜には、クエッタのマルガット (Margat) にて、銃撃戦により治安部隊2名が死亡、3名が負傷した。

○ 24日、KP州南ワジリスタン部族郡のBirmil にて、タジ・グル・ワジール (Taj Gul Wazir) 親政府和平委員会の元委員長を標的とした爆発が発生した。同元委員長は無傷であったが、通行人1名が死亡した他、1名が負傷した。25日、同州デラ・イスマイル・カーン (D I Khan) にて、同事件の自爆テロ容疑者2名が殺害された。

○ 24日、シンド州警察テロ対策局 (CTD) は、バローチ民族解放運動 (BRAS) に爆発物を提供した容疑者4名を逮捕した。また、同州モビナ・タウンにて、先月中国人歯科医を襲撃した容疑者2名が逮捕された。

○ 26日、バロチスタン州ボーラーン (Bolan) 部族郡のダダー (Dhadar) 警察署にて、何者かが手榴弾攻撃を行い、警察官1名が死亡した。

○ 29日、軍統合広報局 (ISPR) の発表によれば、デラ・イスマイル・カーン地区 (Dera Ismail Khan district) で実施された情報に基づく作戦 (IBO) 中の激しい銃撃戦でパキスタン軍兵士2名が殉職した。

○ 29日、KP州デラ・イスマイル・カーン (D I Khan) にて、警察署襲撃により警察官1名と市民1名が亡くなった他、警察官4名が負傷した。

○ 30日、PTIによるロング・マーチ3日目において、民放TV局ジャーナリストのサダフ・ナイーム氏が、カーン前首相らが乗るコンテナから落下し、その後同コンテナの下敷きとなり死亡する事故が発生。カーン前首相は、本死亡事故につき哀悼の意を表し、同日のロング・マーチを取りやめた。

○ 警察テロ対策局 (CTD) は、ムハンマド・ヌール・メスカンザイ (Mohammad Noor Meskanzai) 元バロチスタン高等裁判所長官を殺害したバロチスタン解放軍 (BLA)

戦闘員2名を逮捕した。

○ 30日、地元の長老や政治家等がKP州マラーカンド (Malakand) に集結し、大規模なジルガを開催した。ジルガでは、如何なる軍事行動も支持せず、武装勢力と戦うために平和部隊を結成することもないとの決議がなされた。

○ 31日、軍統合広報局 (ISPR) の発表によれば、バロチスタン州シャフリグ (Shahrig) 近くのカマン峠における情報に基づく作戦 (IBO) 中、4名のテロリストを殺害したが、2名のパキスタン軍兵士が殉職した。

#### 11月分

○ 3日、カーン前首相 (野党PTI党首) 率いるPTI一行が、パンジャーブ州グジュランワラー近郊のワジーラバードを行進中に銃撃を受け、カーン前首相は脚に複数の銃弾を受けた。その後、ラホールのショーカット・ハーノム記念病院に搬送された。

○ 3日、シンド州警察テロ対策局 (CTD) は、ハイドラバード在住の中国人歯科医を殺害しようと計画していたシンド革命軍 (SRA) の戦闘員を逮捕した。9月28日にカラチ市サダル地区で中国人歯科医が銃撃された事件の実行犯も同グループのメンバーであった。

○ 5日夜、シンド州内陸部ゴートキーにて、150名以上の武装集団が警察署を襲撃し、警察副本部長 (DSP) 1名、警察署長 (SHO) 2名を含む警官5名が殉職した。

○ 7日、KP州ハイバル部族郡ジャムルードにて銃撃戦が発生し、ISホラーサーン州 (IS-K) 上級司令官が殺害された。他方、掃討作戦を実施した治安部隊1名が殉職し、1名が負傷した。軍統合広報局 (ISPR) は、行方不明者として報じられていたリアクアット・アリ (Liaquat Ali) (注: 別名シャヒーニ) を殺害したと声明にて発表した。

○ 7日、バロチスタン州カチ (Kachhi) 部族郡のDera Murad Jamaliにて、部族の長老が何者かによって銃殺された。

○ 7日夜、アワラン (Awaran) 部族郡の長老であるMir Akram Sajidi氏は、クエッタとカラチを結ぶ国道を走行中、車の底に取り付けられていた即席爆発装置 (IED) の爆発により死亡した。

- 8日夜、ローワー・ワジリスタン部族郡ラグザイ (Raghzai) 地区にて警察署が襲撃され、警官2名が死亡した他、他の警官2名が負傷した。
- 10日、北ワジリスタン部族郡ミラーリ地区にて自爆攻撃が発生し、治安部隊5名が負傷した。パキスタン・タリバーン運動 (TTP) は、上記2件の犯行声明を発表し、さらに15名の警察官を誘拐したと発言した。
- バロチスタン州ボーラーン地区での掃討作戦により武装勢力3名が殺害された。他方、同州ケチ地区にて、武装集団の発砲により4名が死亡した。
- 11日夜、KP州ラッキーにて、パキスタン・タリバーン運動 (TTP) により警察官1名が殺害された。
- 11日、KP州ハイバル部族郡ジャルムードにて、戦闘員が検問所を襲撃し、警察官2名が負傷した。同日、警察は検問所を襲撃した実行犯を殺害した。
- 15日、KP州クラチ (Kulachi) にて、警察及び治安部隊は掃討作戦によりテロリスト4名を殺害した。
- 16日、KP州ラッキー・マルワットにて、武装勢力が警察を襲撃し、警察官6名が殉職した。当事件に関してパキスタン・タリバーン運動 (TTP) が犯行声明を発表した。
- 15日夜、KP州バジョール部族郡の Hilal Khel にて銃撃戦が発生し、テロリスト1名が殺害された一方、兵士2名が殉職した。
- 17日、KP州デラ・イスマイル・カーン地区にて、ワジリスタン部族郡の長老3名がジルガ会合から帰宅中に射殺された。
- 19-20日、KP州クラム部族郡にて、パキスタン治安部隊とアフガニスタン当局の間でさらに銃撃戦が発生した。銃撃戦により兵士1名が死亡した他、兵士7名及び民間人4名が負傷した。21日、パキスタンの警察及び長老は、タリバーン暫定政権と会談し、平和的手段による解決に向けて議論した。
- 22日、KP州アッパー・ワジリスタン部族郡のサラローガ (Sararogha) 地区にて、テロリストとパキスタン軍との銃撃戦により兵士1名が殉職した。他方、23日、同州



ラッキー・マルワット地区とバンヌー地区の間の国境地帯で、治安部隊がテロリスト1名を銃殺した。

○ 25日、KP州ラッキー・マルワット部族郡にて、パキスタン・タリバーン運動（TTP）との銃撃戦により兵士2名が殉職した他、別の兵士2名が負傷した。

○ 26日、バロチスタン州コール部族郡にて、掃討作戦によりテロリスト9名が死亡、別のテロリスト3名が負傷した。軍統合広報局（ISPR）によると、掃討作戦の対象となったテロリストらはバロチスタン解放軍（BLA）に所属しており、9月30日に発生したコール・バザール爆破事件に関与していたと述べた。

○ 26日、南パンジャープ州警察幹部は、パルベーズ・エラーヒー・パンジャープ州首席大臣と会談し、犯罪者対策として50億ルピーの予算を要請した。当会議は、同州ラジャンプールにて最重要指名手配犯が殺害され、犯罪組織が復讐として警察署を攻撃すると脅迫したことから実施された。

○ 28日、パキスタン・タリバーン運動（TTP）は、パキスタン政府との停戦を破棄すると宣言し、武装勢力に対しパキスタン全土で攻撃を再開するよう指示した。

○ TTPがクエッタで4名を殺害した旨犯行声明を出したテロ事案の翌日、サナウッラー内相はテロ組織との公式協議開始を否定し、テロの脅威を初期の内に取り除くため、治安部隊による徹底的な対処を約束した。

○ 29日、軍統合広報局（ISPR）は、パンジャープ州ホシャブ（Hoshab）にて掃討作戦が行われ、少なくともテロリスト10名を殺害したと発表した。また、テロリスト1名を逮捕したが、別の2人は逃亡した。

○ 30日、クエッターチャマン国道沿いのバレリ（Baleli）地区にて、リキシヤが警察のトラックを攻撃し、4名が死亡、26名が負傷した。亡くなった4名のうち1人は警察官で、他は女性とその子どもの2名であった。TTPは当事件に関し犯行声明を発表した。

○ 30日、軍統合広報局（ISPR）は、KP州北ワジリスタン部族郡（Shewa）地区にて、銃撃戦によりテロリスト1名を殺害した一方、治安部隊1名が殉職した。

## 12月分

- 1日、KP州南ワジリスタン部族郡アザム・ワルサク (Azam Warsak) にて、武装勢力が陸軍公営女学校に対して山から発砲し、近くを通りかかった男性1名が死亡した他、治安当局者1名が負傷した。
  
- 3日、KP州ノーシェラ部族郡アコラ・カタック地区にて、武装集団がパトロール中の警察車両を襲撃し、警察官3名が殉職した。また2日には、同州マルダン地区で警察官1名が銃撃により殺害されている。パキスタン・タリバーン運動 (TTP) は、上記事件の犯行を認めている。
  
- 5日、KP州北ワジリスタン部族郡ジャラル・アルガド (Jhallar Algad) にて、掃討作戦により武装集団を5名殺害した一方、兵士1名が殉職した。
  
- 5日夜、KP州バンヌー部族郡ジャニケル (Janikhel) 地区にて、辺境警備 (FC) 隊1名及びその息子が武装勢力に殺害された。他方、翌日に実行犯は木に首を吊った状態で発見された。
  
- 6日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリにて、部族長老が移動中に何者かに射殺された。
  
- 6日、警察テロ対策局 (CTD) は、KP州デラ・イスマイル・カーン地区にて掃討作戦を実施し、パキスタン・タリバーン運動 (TTP) のガンダプール (Gandapur) グループに所属する3名を殺害した。
  
- 6日夜、KP州バンヌー部族郡にて、テロリストが検問所を襲撃し、警察官1名が殉職した。
  
- 8日、国家テロ対策局 (NACTA) は、2年ぶりに理事会会合を開催し、テロ対策を実施する連邦政府レベルでの組織設立について議論された。
  
- 9日、KP州ノーシェラ (Nowshera) にて、警察テロ対策局 (CTD) はパキスタン・タリバーン運動 (TTP) 戦闘員4名を殺害した。また10日には、治安部隊がアフガニスタンとの国境付近にて、ダーイシュに所属するテロリスト4名を殺害した。
  
- バロチスタン州ローラライ (Loralai) にて、パフトゥーン民族大衆党 (PkMAP) 幹部が何者かに銃殺された。

- 14日、KP州北ワジリスタン部族郡サルガルダン (Sargardan) にて、自爆テロ犯が治安部隊の車列に衝突した。民間人3名が死亡した他、警備員9名を含む14名が負傷した。
- 14日、KP州デラ・イスマイル・カーン地区の料金所にて、武装集団が警備員1名を殺害し、現金を奪って逃走した。警察は、同料金所での襲撃は2度目であり、テロリストが関与していると発表した。
- 15日、警察テロ対策局 (CTD) は、36名が死亡した2009年ラーワルピンディでのテロ事件の容疑者を逮捕した。
- 15日、ISPRは、KP州北ワジリスタン部族郡ミランシャーにて自爆攻撃が発生し、パキスタン陸軍兵士1名を含む2名が死亡、9名が負傷した。
- 18日、KP州バンヌー部族郡にて、警察テロ対策局 (CTD) 施設内で拘束されていた過激派が警備員に発砲し、警官1名及び兵士1名が負傷した。
- 18日、KP州ラッキー・マルワット部族郡にて、テロリストが警察署を襲撃し、4名が死亡した。
- パキスタン・タリバーン運動 (TTP) は、KP州バンヌー部族郡の警察テロ対策局 (CTD) 施設を占拠しCTD職員及び治安部隊数名を人質に取った。その後、パキスタン軍がCTD施設を奪取し、武装勢力25名を殺害した。他方、銃撃戦により治安当局者3名が殉職、10名が負傷した。
- 19日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラムシャー (Miramshah) にて、自爆テロにより兵士1名及び民間人2名が死亡した。
- 19日、KP州ペシャーワルにて、内閣情報局 (IB) の警部補 (Sub-inspector) が何者かに銃撃され殉職した。
- 20日、バロチスタン州ハーラン (Kharan) にて、武装勢力が検問所を襲撃し、兵士1名が死亡、1名が負傷した。
- 23日、イスラマバード市内I-10/4地区にて自爆テロが発生し、警官1名が

死亡、警官4名及び民間人2名が負傷し、自爆テロの実行犯2名は死亡した。報道によると、パキスタン・タリバーン運動（TTP）が当攻撃について犯行声明を発表した。

事件発生直後、イスラマバード警察は市内全域にレッド・アラートを発出した。

○ 24日、テロリストの攻撃により、ケチ地区のトゥルバットにおいてFC部隊の兵士4名が、チャマンにおいて治安部隊の兵士1名が殉職した。

○ 25日、当地米国大使館は、全ての米国人に対しイスラマバードのマリオットホテルを訪問しないようセキュリティ・アラートを発出した。また、年末年始休暇の間にイスラマバード市内で不要不急の外出を行わないよう注意喚起を行った。

○ 26日、軍統合広報局（ISPR）の発表によるとバロチスタン州カハン及びサムバザにおいてテロリストによる攻撃があり幹部1名を含む合計6名の兵士が殉職した。カハンでの攻撃にはIEDが使用され、現在もテロリストの捜索・掃討作戦が継続中。サムバザでの攻撃はアフガニスタンからパキスタンへの侵入経路の特定及び封鎖を目的とした作戦中に発生、同攻撃にはアフガニスタン側からの越境射撃支援も実施された。この他、クウェッタのハブ及びカラットにおいても手榴弾などの爆発物を使用したテロリストによる攻撃があり、市民を含めて負傷者が発生したが死亡者は報告されていない。

○ 26日、当地サウジアラビア大使館は、イスラマバード市内において不要不急の外出を避けるようサウジアラビア人に対し注意喚起を発出した。

○ 26日、英外務省は、KP州や南海岸を除くバロチスタン州等への渡航を控えるよう勧告を発表した。また、豪州外務貿易省は、治安状況や誘拐のリスクのため、チトラルを除くKP州やバロチスタン州、国境付近への渡航を控えるよう勧告を発表した。

○ 26日、シャリフ首相は、KP州デラ・イスマイール・カーンでの集会にて、州政府や治安部隊と協力し、パキスタン・タリバーン運動（TTP）等によるテロ攻撃を撲滅すると発言した。

○ 27日、グワダルでの抗議デモが激化し、警察官が何者かにより射殺された。ビゼンジョー・バロチスタン州首席大臣や同内相は警察官の殺害を非難する声明を発表した。

○ 12月29日、軍統合広報局（ISPR）の発表によれば、北ワジリスタン地区のミラリ（Mirali）にある監視所に対して自動車による自爆テロ攻撃があり、2名の兵士が負傷した。

○ 12月29日、軍統合広報局（ISPR）の発表によれば、KP州 クラーム（Kurram）地区のアラワリ（Arawali）において、テロリストとの銃撃戦により3名の陸軍兵士が殉職した。

## 5 誘拐・脅迫事件発生情報

今期、日本人が対象となる誘拐事件は発生しなかった。

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が頻繁に発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

また、女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

## 6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していないものの、2017年5月にはクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年7月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が、事件に巻き込まれるケースも発生している。

2020年12月15日、カラチ市南地区において中国人の車両に遠隔装置爆弾が設置されたが不発だった。この中国人はレストランを所有している。同人がクリフトン地区のショッピングモールから帰宅していたところ、オートバイに乗車した2人の男が中国人車両に接触した後に逃走した。その際に爆発物が磁石で取り付けられた。

2021年4月、クエッタにおいて駐パキスタン中国大使が滞在していたホテルに対するテロが発生した。さらに、同年7月14日には、KP州のダッスー水力発電プロジェクトに従事するスタッフ達を乗せた中国会社のシャトルバスが建設現場に向かう途上で攻撃に遭い、中国人及びパキスタン人十数人が死亡し、数名が負傷した。本件については、パキスタン政府及び中国政府がテロであったとしている。

同年8月20日、バロチスタン州グワダルにおいてCPEC関連事業に従事する中国人技術者を狙った自爆テロが発生し、中国人及びパキスタン人9人が死亡、複数の負傷者が出た。

2022年4月26日午後、シンド州カラチ市のカラチ大学に隣接する孔子学院前で自爆テロが発生し、中国人教員3名を含む4人が死亡、2人が負傷した。

同年9月28日午後、カラチ市サダル地区にある歯科医院内で殺害事件が発生し、中国人1名が射殺され、2人が負傷した。

また、2022年11月、パキスタン・タリバーン運動（TTP）がパキスタン政府との停戦協定の破棄を宣言以降、テロの脅威がある。

当地においては、活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、まずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられ、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

(以上)